

稲とフナ 元気に育て

大津市真野谷口町の棚田で古代米とニゴロブナを育てている市民グループ「棚田・里山・古代米・鮒プロジェクト」のメンバーが今年も田植えと稚魚の放流を行った。

同プロジェクトは3年前、住民の高齢化で耕作放棄の危機にあった棚田を継承。栄養価の高い黒米を無農薬栽培する一方、水田を利用してニゴロブナを養殖し、一部を琵琶湖に放流している。さらに、棚田を自然と人が共生する場にしようと2018年から市内外の家族を対象に田植えや稲刈りの体験のほか、隣接する県営春日山公園で自然観察会などを開いている。今年は新型コロナウイルスの感染防止のため、田植えにはメンバー6人だけが参加。小型農機で棚田10枚約12畝に苗を植え付け、農機が入らない場所には手植えを行い、後日にフナの稚魚2万匹も放った。

代表の富田豊さん(71)は「水の管理が難しく、草取りも大変だが、手をかける分、おいしい黒米に育ってくれる。次回からは参加者と一緒にイベントができれば」と話していた。



棚田で苗を手植えするプロジェクトのメンバーら